

# Red Parasol, HIROSHIMA

—若い世代が英語で伝える 15歳の被爆体験—

1945年8月6日、広島市立第一高等女学校（現広島市立舟入高等学校）の4年生だった高梨曠子さん。たかなしひろこ

15歳で被爆した曠子さんの被爆体験と平和への思いを世界に伝えようと、  
広島の本トルダム清心中・高等学校と広島女学院高等学校の生徒10人が英語で朗読し、  
YouTubeチャンネル「HIROSHIMA」で動画を公開しています。

## 朗読動画「Red Parasol（赤い日傘）」について

### 被爆体験記「ヒロシマ」

—その朝、曠子さんは、お父さんに内緒で持ち出した赤い日傘を差して、横川駅で友人を待っていました。突然、白い閃光が走り熱線に全身を覆われたかと思うと、爆風で飛ばされ、気が付くと線路の上に倒れていました。手には骨だけになってしまった日傘を握っていました。何が起こったのかどうしたらいいのかを考える力もなく、火傷した足を引きずりながら線路上を裸足で歩きました。そこら中、死体が転がっていました。—曠子さんが戦後60年を経てからやっと語ることができたあの日の体験は妹の水江みづえ顕子さんが2007年に出版した被爆体験記「ヒロシマ」に収められました。



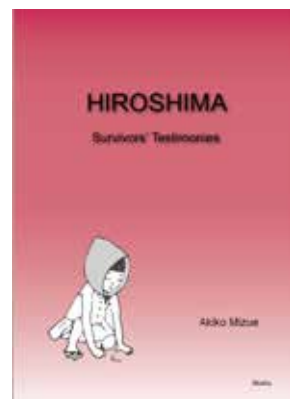
高梨 曠子さん（1946年）

### 次世代が継承し、伝え続ける

曠子さんと顕子さんの体験記は、2020年に本トルダム清心中・高等学校卒業生のグループによって英訳・出版されました。その後朗読ビデオの製作プロジェクトが進められ、今回の「Red Parasol」製作に至ります。（この経緯等については裏面をご覧ください。）

### 若い世代の声で伝える被爆体験

今回「Red Parasol」を朗読したのは、当時の曠子さんの年齢に近い中高生たちです。本トルダム清心中・高等学校と広島女学院高等学校の生徒10人が練習を重ね、心を込めて英語で朗読しました。曠子さんは「広島若い方たちが私の被爆体験を朗読してくださったことに感謝するとともに、次の世代が更にその次の世代にヒロシマのメッセージを伝えられることを願っています。」と思いを託しておられます。



英語版「ヒロシマ」



### ご視聴はこちらから

YouTubeチャンネル「被爆体験記「HIROSHIMA」」(<https://www.youtube.com/@hiroshima4631>)  
「Red Parasol（赤い日傘）」のほか、顕子さんの体験記「Little Michiko（道子ちゃん）」、顕子さんによるあとがき「戦後を生きて」を日本語・英語でご視聴いただけます。  
この動画のことが世界中の1人でも多くの方に伝わるよう、シェアにご協力ください。  
動画に関する問合せ先：teamakiko22@gmail.com

## 英語朗読動画「Red Parasol」制作経緯と Team Akiko について

「Red Parasol」は、7歳で被爆した水江颯子さんと姉の高梨曠子さんの被爆体験記「ヒロシマ」から始まった「核兵器のもたらした悲惨さを世界に伝え、次世代に繋いでいく」プロジェクトの一環として制作した動画です。

プロジェクトに取り組む Team Akiko は、広島出身の女性グループです。代表の水越緑はノートルダム清心中・高等学校（以下、ND清心）の卒業生で、恩師であるシスター渡辺愛子を通じて、2018年に被爆体験記「ヒロシマ」と出会い、その後、颯子さんと曠子さんの1945年8月6日の体験と平和を願う心を世界に伝えていくため、メンバーと力を合わせて英語による朗読動画の企画を進めてきました。Team Akiko という名は、水江颯子さんのお名前をいただいています。颯子さんは2022年4月に惜しくも逝去されましたが、その思いを引き継ぎ、同年8月に朗読動画「Little Michiko」を完成させました。

今回の高梨曠子さんの体験をつづった「Red Parasol」の朗読動画には、ND清心と広島女学院高等学校（以下広島女学院）のご協力を得て、両校の生徒が参加しています。練習を重ね素晴らしい朗読をされた10人の生徒さん、両校の先生方に心から感謝申し上げます。

多くの方たちの善意と努力によって完成した「Red Parasol」をぜひご視聴いただき、この動画が世界中に届くよう、広報へのお力添えをお願いいたします。

プロジェクトの概要		
経緯	2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水江颯子さんがご自身とお姉様の高梨曠子さんの被爆体験記、「道子ちゃん」と「赤い日傘」そして、二つの手記を通して戦争を振り返る中で平和への願いを綴った「あとがき～戦後を生きて」をまとめ小冊子「ヒロシマ」を出版</li> </ul>
	2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シスター渡辺愛子の提案により、ND清心の卒業生が「ヒロシマ」の英訳に着手</li> </ul>
	2020	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ヒロシマ」の英語版「HIROSHIMA」を出版</li> </ul>
	2021	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 翻訳者の一人である水越緑が「道子ちゃん」「赤い日傘」、「あとがき～戦後を生きて」の日本語の朗読動画を同窓生とともに制作</li> </ul>
	2022	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月、Team Akiko 結成、朗読動画「Little Michiko（道子ちゃん）」の制作を開始 朗読はネイティブスピーカーに依頼するのではなく、颯子さんの思いを直接受け取ったメンバーが担当することに</li> <li>● 8月、「Little Michiko（道子ちゃん）」が完成・公開</li> <li>● 続いて高梨曠子さんの体験記「Red Parasol（赤い日傘）」に着手</li> <li>● 「広島若い人に読んでもらいたい」という颯子さんの願いを念頭に、メンバーの母校であるND清心と広島女学院に協力を打診</li> <li>● ND清心と広島女学院から「Red Parasol」への生徒の参加についてご了承を得る (ND清心の神垣校長先生、英語科のシスター・メリー・コリピオと宗教科の上垣内先生からサポートをいただくことに)</li> </ul>
2023	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月、ND清心から7人、広島女学院から3人の生徒が参加することが決定し、23日にZoomによるキックオフミーティング</li> <li>● 3月、シスター・メリー・コリピオのご指導の下、生徒たちが朗読の練習を開始</li> <li>● 並行して颯子さんのお嬢様の水江美保さんとともに「Afterword・Living through War（あとがき～戦後を生きて）」の朗読動画の制作に着手</li> <li>● 6月、広島市内のスタジオで録音</li> <li>● 8月、朗読動画「Red Parasol」と「Afterword・Living through War」完成・公開</li> </ul>	
連絡先	Team Akiko : teamakiko22@gmail.com	